



令和二年水無月

城北中だより

城北中学校教育目標

	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 156名
○真剣に学ぶ生徒	2年 173名
○健康な生徒	3年 155名
	特別支援学級 8名
	全校生徒数 492名

未知なるが故に

校長 玉崎 芳行

「玉ちゃん、次の学校に行ったら、最初の二週間が大切だぞ。子どもは、直ぐに“このオトナは、上っ面だけだな” “この人は、本気で俺たちと向き合おうとする人だな” って、理屈じゃなくて、肌で感じ取ることもあるもんなんだなあ。だからね…」

初任校からの人事異動を控えた3月末、私にとって、今も“教師の鑑”と敬愛する先輩から頂いた言葉である。赴任前夜の未知なるものに対する言いようのない不安と緊張感は、今でもはっきりと覚えている。

4月1日、新しい学校、新しい職員室、新しい同僚。4月8日、初めての出会い、初めての挨拶、初めての呼名…その後も、他校や教育委員会に異動するたびに、未知なるが故の不安や心労を味わった。知らない人、知らないこと、知らない仕組みと向き合う中で、幾度となく自分を見失い、心が折れそうになった。それでも、もがき苦しみながらも、自分なりに見つけたことがある。それは、『人を思う心、TPOを踏まえた判断力、与えられた状況下での最適解を見出そうとする想像力と創造力や協調性を大切にし、人生の礎として生きよう。』という心根にもなったものだ。

今現在、目の前で起こっているCOVID-19対応を受けての「新しい生活様式」が国から提言された。本市においても、「さいたま市学校教育活動実施マニュアル」「学校の新しい生活様式」が示された。学校では、感染症拡大防止対策、スタディ・エッセンスの利活用、分散登校、教育課程再編成等に取り組んでいる。まさに、未知なるものと対峙している。確かな情報に触れ、正しく恐れながら、教育活動を再開せねばならない。どのような状況下におかれようとも、その基軸は、子どもたちの安全・安心と望ましいはぐくみである。未知なるが故に、今一度、心根を奮い立たせる。

学び舎に、子どもたちの声よ、響け。子どもたちの笑顔よ、広がれ。